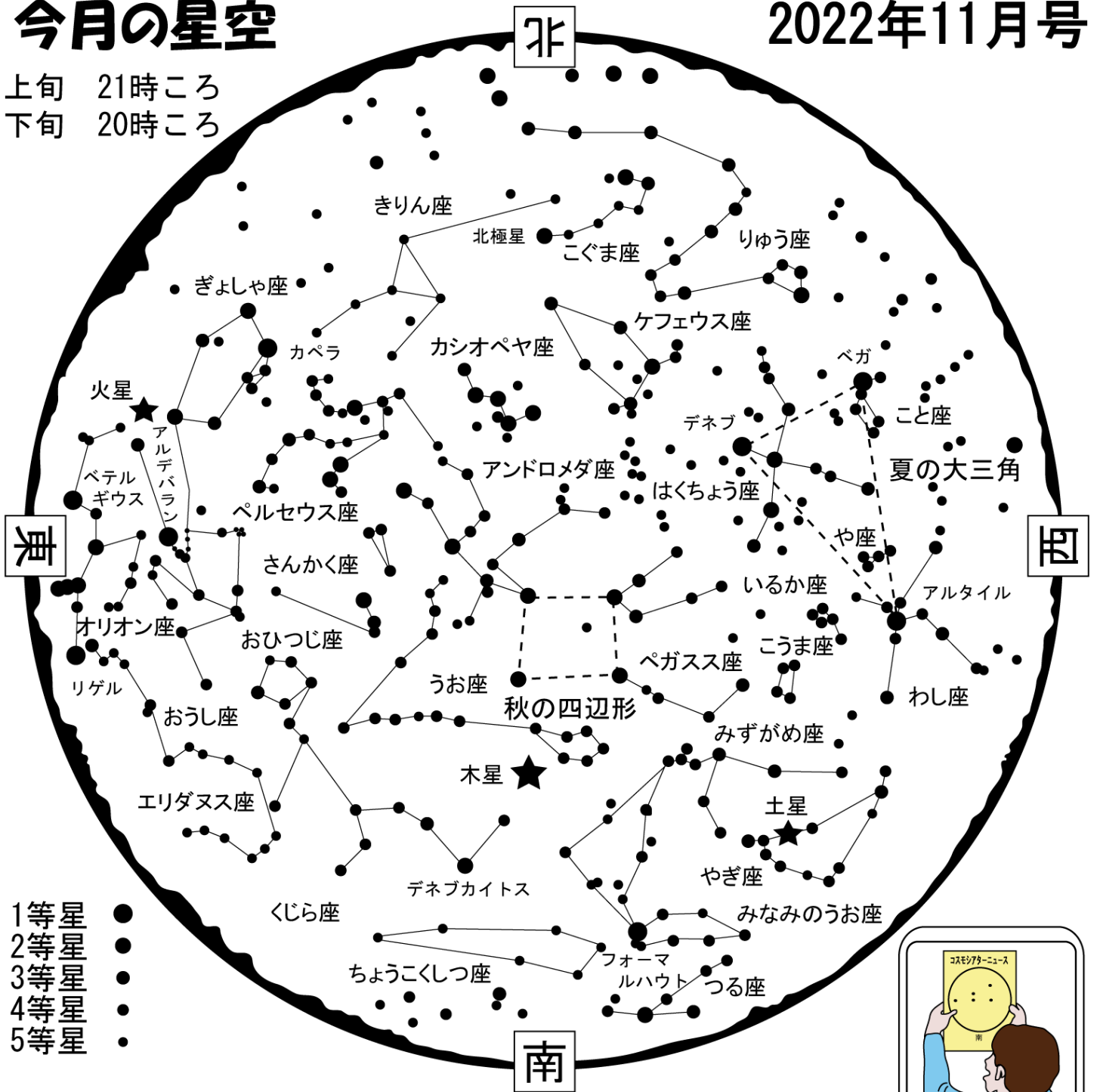


コスモシアターニュース

今月の星空

2022年11月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



- 1等星 ●●
- 2等星 ●●●
- 3等星 ●●●●
- 4等星 ●●●●●
- 5等星 ●●●●●●

水星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。
 金星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。
 火星：20時～21時ころ東の空に見えます。明るさは-1.5～-2等星です。
 木星：夕方南の空に見え、真夜中すぎに沈みます。明るさは3等星です。
 土星：夕方南西の空に輝き、真夜中ころに沈みます。明るさは0.5等星です。

自分の向いている方向を下にして、見てください

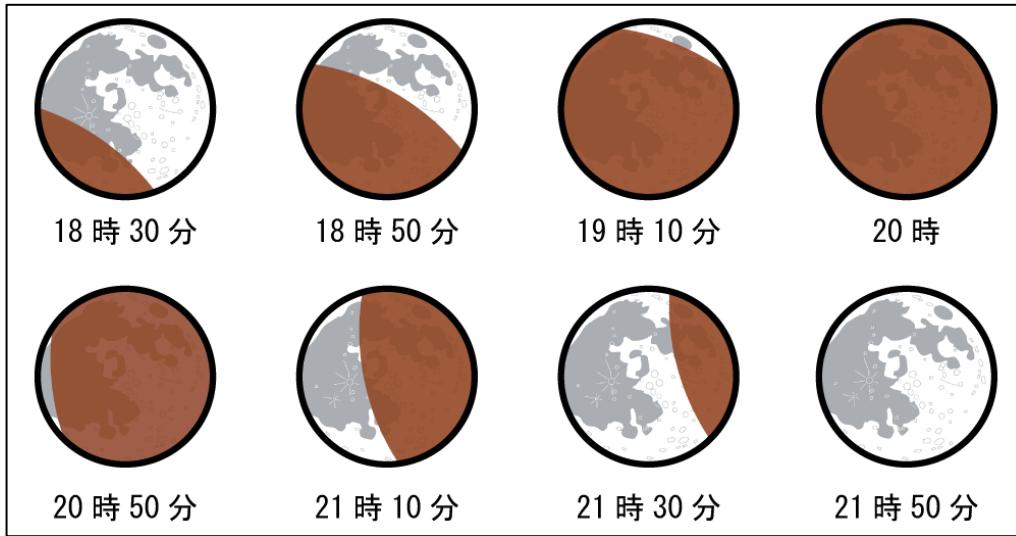
今月の月の満ち欠け

上弦：1日(火) 満月：8日(火) 下弦：16日(水) 新月：24日(木) 上弦：30日(水)

4日(金)、夕方の南東の空で、月と木星が並んで輝く

4日(金)の19時半ころ、半分より少し太めの明るい月が輝きます。そして、月のすぐ左上に見える明るい星が木星です。木星は、星の中でいちばん明るいのでたいへん目立つでしょう。なお、翌日の5日(土)は、月が木星の左側に移動しますが、まだ近い状態は続きます。肉眼でよく見えますので、ぜひご覧ください。見ごろは、深夜まで続きます。

8日(火)、皆既月食が見られる



8日(火)の夜、皆既月食が見られます。月は東の空に昇って、しばらくして起こりますので、東の方向に障害物がないところをご覧ください。左の図は、月食の様子をまとめたもので、図の下側が、地平線方向になります。

今回の月食は、18時9分ころ月の左下から欠け始めます。そして、19時16分ころから約1時間25分間が完全に欠けて見える皆既月食となります。その後、20時42分以降に、左端から明るくなっていきます。月食は、月の欠けぎわが

ぼんやりしているので、日食のようにはっきりした現象ではなく、おおよその時刻となりますのでご注意ください。

月食は肉眼でも楽しめますが、双眼鏡があれば、月の色の変化などもよくわかります。小さなものでもいいので、双眼鏡を用意して観察するといいでしょう。さて、次回の皆既月食は、2025年9月です。また、夜半前に見られる皆既月食は、2026年3月3日となり、しばらく見られませんが、ぜひご覧ください。

11日(金)、宵の東の空で、月と火星が並んで輝く

11日(金)の19時半ころ、満月に近い明るい月が東の空に昇ってきます。そして、月のすぐ右下に並んでオレンジ色の星が、昇ってきます。この星が、火星です。火星は、 -1.5 等星でかなり明るいので、肉眼でもよく見えるでしょう。なお、火星の右側にもオレンジ色の星があります。これは、おうし座のアルデバランです。火星より少し暗いのですが、肉眼でもよく見えます。また、火星の左上に見える明るい星は、ぎょしゃ座のカペラになります。なお見やすいのは、火星の高さが高くなる、20時以降になります。

秋の星を見つけよう

右の図のように、秋の四辺形を使うと見つけることができます。時刻は、11月上旬の20時ころ、下旬ですと19時ころです。そして、見る上げる方角は、南の空を見た時の様子です。右が西、左が東、下が南で上が北になります。

秋の星の見つけ方ですが、たとえば、秋の四辺形の右側の辺を結んで、南側に伸ばすとフォーマルハウトが見つかります。この星は、秋の星座の中でただひとつの1等星で、秋のひとつ星や南のひとつ星と呼ばれます。今年、フォーマルハウトの西側のやぎ座に土星が輝き、いつもとは違った姿になっています。

また、左側の辺を結んで、同じように南側に伸ばすと、大変明るい木星にたどりつきます。さらに、南に進むと、くじら座のデネブカイトスにたどり着きます。

いっぽう、上側の辺を結んで北に伸ばすと、カシオペヤ座(とケフェウス座があります)をとおり、北極星へたどり着きます。

このころ、秋の四辺形は、ほぼ頭の真上に輝いています。まず頭の真上を見上げて、四辺形を見つけ、秋の星座たちを見つけてみてください。

なお、11月は8日が満月になります。満月のころは、月が明るく星が見にくいことがあります。星座を見つけるには、中旬以降がいいでしょう。

